

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

令和4年10月30日

釧路市議会議長 松 永 征 明 様

会 派 名 市民連合議員団

代表者名 佐 藤 勝 秋



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受 命 者	岡田 遼・板谷 昌慶
出 張 先	釧路市阿寒湖温泉
期 間	令和4年10月4日 ～ 令和4年10月5日 (2日間)
用 務	阿寒湖温泉の観光まちづくりについて
調査 (研修) 結果等の概要	<input type="checkbox"/> 場 所 阿寒湖温泉 <input type="checkbox"/> 阿寒湖温泉の観光まちづくりについて <input type="checkbox"/> アイヌ文化などを体験できるアドベンチャーツーリズムの取組について <input type="checkbox"/> アイヌロストカムイ・アートギャラリー・アイヌカムイルミナ視察
備 考	

- 注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書 (原本) とともに会派で保管すること。
2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

阿寒湖温泉視察 概要報告

市民連合議員団

(会長 佐藤 勝秋)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による、3密を避けた新たな旅行スタイル等が課題とされている観光地における、今後の観光業への対策や対応を視察しましたので、以下、その概要について報告します。

□ 阿寒湖温泉の観光まちづくりについて

NPO 法人阿寒観光協会まちづくり推進機構 専務理事 高田 義人 氏
(報告担当：板谷 昌慶)

まちづくり協議会は2004年観光協会とまちづくり協議会が合併し、アイヌ文化に彩られた国際リゾートを目指しまち一体で挑戦を続けて現在に至ります。北海道釧路市阿寒湖温泉地域計画を策定し、環境省への「地域一体型」の補助申請として①宿泊施設の高付加価値改修、②観光施設の改修、③廃屋の撤去、④交通関係事業が挙げられました。

また、阿寒湖温泉の持続的な発展を主体的に担う阿寒湖温泉の住民、関係機関がそれぞれの役割を果たしながら、自主的・主体的なビジョン・計画として策定した阿寒湖温泉ビジョン2030があり、環境省「阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト(ステップアッププログラム2025)」釧路市「第二期釧路市観光振興ビジョン(2016～2026)」などと連携を図りビジョン実現へ向けて取り組んでいます。

新型コロナウイルスの影響としては、2020年3月以降大きく宿泊客が減少し、7月以降は道民割、GOTOトラベルの効果により道内客を中心に宿泊客は回復し、11月は前年を上回りましたが、2021年は第4波、第5波の影響により、再び厳しい状況となっている現状であります。

新型コロナウイルスへの対応として、宿泊施設、商店街等は「新北海道スタイル」による感染予防対策を実施し更には、アイヌ紋様入りマスクを製作、また、人気格闘漫画「刃(バキ)」の阿寒湖温泉にも在住経験がある原作者の板垣恵介氏の協力も頂き、原画展などを開催。板垣氏は2021年2月に阿寒湖温泉観光大使就任し、原画9点の他、アイヌ伝説をモチーフとした「アイヌラックル」を書き下ろして頂いている。

今後の重要プロジェクトとして、アドベンチャーツーリズムの推進・スキーブームを睨んだ取組、国立公園における「ゼロカーボン・パーク」の推進、阿寒湖温泉の

土地利用(阿寒湖集団施設地区計画等)、阿寒アイヌクラフトセンター及び阿寒湖フォレストガーデンの継続整備、阿寒湖温泉のアイヌ文化の伝承・自然保護のあり方、阿寒湖温泉の観光まちづくり人材の強化・財源継続・強化、有識者や専門事業者との連携などをあげ、2030年に向けて「世界・日本を代表する国立公園の温泉観光地(阿寒湖温泉)」を目指し、これまで前田一歩園財団をはじめとする阿寒湖住民の自然保護活動、まちづくり、アイヌ文化の伝承といった取り組みを継承しつつ、コロナ禍の危機的な状況からの復興、阿寒湖温泉の、世代交代を進めつつ、アドベンチャーツーリズム、ウインターアクティブと言った自然を楽しむ、アイヌ文化に彩られる「阿寒摩周国立公園の宿泊拠点」として、国立公園にふさわしい世界基準の観光地づくりに尽力していくという力強い思いと計画について示されました。

新型コロナウイルス感染症の終息が見えない現状ではありますが、様々な影響を受けながらも、未来へ向けての計画・取組の推進に大いに期待し、今後の経過も注視する必要があると感じました。

□ アイヌ文化などを体験できるアドベンチャーツーリズムの取組について

釧路市産業振興部 阿寒観光振興課 課長補佐 阿部 貴倫 氏

(報告担当：板谷 昌慶)

現在、阿寒湖アイヌコタンには約120人のアイヌの人々が暮らしており、多くのアイヌ工芸の作り手たちが、伝統を大切にしながらも、現代の感覚を取り入れ新しいものづくりに挑戦しています。

阿寒湖温泉におけるアイヌブランド化の取り組みにおいては、阿寒湖アイヌシアター「イコロ」やアイヌ文化を活かした景観整備、また BEAMS との商品開発や千本タイマツ行進など様々な報告がありました。

また AT(アドベンチャーツーリズム)と地域資源の再発見では、観光立国ショーケースと国立公園満喫プロジェクトに選定されたことにより、多くの外国人旅行者に選ばれる魅力的な滞在プログラム、観光地域づくりに向けて取り組みを進めているところであり、阿寒摩周国立公園をはじめとする豊かな自然、登山、カヌー、スキー等のアクティビティ、そして阿寒湖のアイヌ文化の全ての要素が揃うことから、欧米豪の富



裕層を対象とした新たな旅行商品(アドベンチャートラベル)の開発による世界一級の観光地域づくりの為、更に磨き上げ地域振興・観光振興に尽力している現況が見られました。

また、アイヌ政策推進交付金を活用し令和3年度事業(観光振興分)として、アイヌ文化ガイド事業、アイヌアーティストのブランド化事業、アイヌ文化関連観光プロモーション事業、アイヌ文化フェスティバル開催事業などに取り組み、アイヌ文化を継承の為の自活推進の事業強化の取り組みについて説明をうけました。

様々な取り組みを地元の方々に周知を行い、理解頂き、取り組み推進の強化につなげる必要があると考えました。

□ アイヌロストカムイ・アートギャラリー・アイヌカムイルミナ視察について

(報告担当:板谷 昌慶)

今回、アイヌロストカムイ、アートギャラリー、アイヌカムイルミナを視察致しました。カムイとはアイヌ語で神々を意味します。

阿寒湖温泉には、北海道の先住民族アイヌが暮らすコタンがあり、アイヌコタンでは、伝統的な古式舞踊を体感できます。

阿寒湖アイヌシアター「イコロ」では、2019年3月より阿寒ユーカラ「ロストカムイ」を上演しており、デジタルアート・サウンドデザイン・ダンスなど各分野で注目を集めるクリエイターが阿寒湖に集結し、古式舞踊・現代舞踊・3DCG・7.1ch サラウンドを組み合わせ、5台のプロジェクターで舞台を立体化し、誕生した新演目が、開演以来多くの観光客の方に来場頂き感動を広げているといいます。



また、アートギャラリーでは、美しき北海道の自然文化とアートの共鳴が広がります。目前に阿寒湖が広がる明るい空間では、この地に縁あるアーティストの磨かれた技術、感性がとらえた自然・文化にまつわる作品を展示販売されており、北海道の自

然の美しさ、ローカルカルチャーの豊かさがアートを通して「再発見」することができる空間になっています。2階ギャラリーには、アウトドアマスターガイドとしても活躍する安藤 誠氏の作品を主として展示（安藤 誠 写真展：日常にある奇跡 Ordinary Miracle）されておりました。世界で活躍するプロガイドである安藤氏の写真を通して、この地で「共に生きている」動物たちと、ここにしかない出会いが体感できる空間であり多くの方の来場を期待するところであります。



日没後、アイヌカムイルミナへ向かいました。日本の国立公園内では初開催となる[ナイトウォーク]が体感できるプログラムの開発が行われ、アイヌのユーカラをベースに夜の森を舞台としてアイヌ文化を体感できるアクティビティにデジタルアート技術を採用し、新たな滞在型コンテンツの創出により、総合的な入込客数の増加が図られている。場内では「フーンコ フ

ンコ フーンコ」というメロディが繰り返し流れ、これは、シマフクロウの鳴き声を真似たもので、四宅ヤエ氏本人が語ったユーカラの音源を使用しており、親族である平良智子氏が、今回のために新たにレコーディングされ、ムックリやトンコリの演奏、歌で華が添えられています。この売上の一部は、自然環境保護活動、アイヌ文化振興に寄付され、阿寒湖畔の森と湖の保全、アイヌ文化の発展に活かされるとの事です。

改めて各施設を視察し、多くの方の体感・実感してもらいたい素晴らしい施設であるという事が再認識しました。今後は周知拡大を図り、観光客の集客強化につなげる必要があると実感しました。

以 上